

第25回 鈴鹿病態薬学研究会

講師：Gabazza Esteban（ガバザ エステバン）先生

（三重大学大学院・医学研究科・特定教授）

日時：2026年（令和 8年）1月 22日（木） 17時より

会場：鈴鹿医療科学大学 白子キャンパス 1号館 1606室

ZOOMによるライブ配信（ハイブリッド開催）

演題：細菌叢由来ペプチドcorisinの病態形成機構：老化、炎症、凝固異常および線維化への多面的関与

最近、Gabazza先生達が発見した腸内細菌が作るペプチド「コリシン」が腎臓に作用し、老化や様々な疾患を引き起こす仕組みをご紹介します。「腸と腎臓のつながり」を探る最新研究として注目されています。

主催：鈴鹿病態薬学研究会

共催：株式会社 メディカルー光

後援：一般社団法人 三重県薬剤師会



学外から参加ご希望の方は、下記のURLにてお申し込みください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSc3O7KntvxPMoZbt4KDbmDkIX6msgXhOhqIrT8RToug_gCwbQ/viewform?usp=publish-editor

第25回 鈴鹿病態薬学研究会

日時：2026 年 1 月 22 日(木) 17:00 より

会場：鈴鹿医療科学大学（白子キャンパス）1 号館 S1606 教室

ZOOM によるライブ配信併用（ハイブリッド開催）

演題：「細菌叢由来ペプチド corisin の病態形成機構：老化、炎症、凝固異常および線維化への多面的関与」

講師：Gabazza Esteban（ガバザ エステバン）先生

（三重大学大学院・医学研究科・特定教授）

講演概要

細菌叢は宿主の免疫応答や代謝恒常性の維持に重要な役割を果たしているが、近年、その構成菌が産生する代謝物質やペプチドが臓器障害の病態形成に関与することが注目されている。私たちは、Staphylococcus 属由来のトランスグリコシラーゼ断片ペプチドである corisin を同定し、その強力なアポトーシス誘導活性を明らかにした。Corisin は肺上皮細胞および腎尿細管上皮細胞にミトコンドリア障害と活性酸素種の産生を引き起こし、細胞老化および上皮-間葉転換(EMT)を介して線維化を促進する。また、血液凝固系の異常活性化を誘導し、COVID-19 や急性肺障害、急性胆管炎などの急性炎症病態にも関与することが示唆されている。さらに、妊娠異常や早産のリスク因子となる可能性も報告されている。

本講演では、corisin の発見から分子機構の解明、動物モデルおよびヒト検体を用いた検証に至る一連の研究の進展を概説し、特にプロテアソーム活性化や血清アルブミンとの相互作用など、病態形成における新たな分子基盤を紹介する。さらに、抗 corisin モノクローナル抗体による中和戦略の成果と、今後の治療的応用の展望についても議論する。

主催：鈴鹿病態薬学研究会（代表 鈴木 宏治）

共催：株式会社 メディカルー光

後援：一般社団法人 三重県薬剤師会

事務局（問い合わせ先）：鈴鹿医療科学大学薬学部・中山 浩伸 TEL：059-340-0606

e-mail：nakayamh@suzuka-u.ac.jp